

中野 香織

この夏、若い男性の浴衣姿を多く見かけた。全身の統一感があることで品よく見えるばかりか、足元や首元が涼し気で、体形を隠しながらシルエットを見せるドレープはセクシーでもある。パーティーでも着物姿の男性を見かける頻度が増えた。タキシードやダークスーツの集団にあって、着物は格においても引けをとらないどころか、ひときわ目をひく。少数派である着物の男性は話しかけられやすく、デメリットを探す方が難しい。

それなのに着物を着ない理由があるとしたら、着付けや片づけが面倒でルールが厳しく、価格も含め敷居が高そうというイメージからか。そのようなハードル

和洋折衷着物

を払拭し、自由で刺激的なファッショントとしてモダンな着物を世界に展開していくとする試みが始まっている。

たとえば、創業100年という老舗の「やまと」が2015年にオープンした「Y.&SONS」。創業者と息子たち、という西洋風の社名のもと、正統派の着物だけではなく、着物に合わせやすい帽子、革靴、バッグなども取り扱う。17年の10月には、ノルウェーのデザイナー、Tーマイケルの作るウールフラノの生地を用いて、洋服と組み合わせてもスタイリッシュに仕上がる着物、T-KIMONOを発売する。ネイビーやグレー地にカラーのストライプが入るウール地は、スーツ用としても使

「正解」は時代が決める



Y.&SONSが提案するT-KIMONO

える服地。これで仕立てた着物は、スーツに替わる仕事着や社交着としても通用する品格を備え、帽子や革靴、トラウザーズと合わせても、違和感がない。

「正しくない着方」として批判する教条主義な見方もあるだろう。しかし、正解とはなんだろう。伝統をうんぬんするなら、本来、着物はフォーマルだけでなく、日常でも着られた多様性のある服だった。現代の着物の元祖は江戸時代の小袖で、これは前時代には下着である。

飲食業界では「和」の文化が新しい視点のもとに続々と生まれ変わり、人気を博しているが、着物においてもその可能性は大いにありうる。和洋折衷着物が「正解」になるかどうかは、着物の歴史における幾多の変革の時にそうだったように、時代が決めていくだろう。

(服飾史家)